

「姫きもの展」

—94歳の若い感性に学ぶ—

時代を経て受け継がれる着物の素晴らしさを体感して頂けます。

◆8月5日(火)～8月10日(日) 10:00～17:00 (最終日は15:00まで)

◆会場:1階集会室、2階和室1&2



「ステンド硝子アート&ステンドグラス作品展」～stained by me～

光と色彩の美しさをぜひ体感してください。

◆10月11日(土)～19日(日) 10:00～17:00  
※14日(火)は休館日 ◆会場:1階集会室、2階和室1&2



「杉浦明平展」

多彩な文学活動と同時に、社会の問題に向きあい行動した、人間・杉浦明平を紹介します。

◆10月15日(水)～11月9日(日) 10:00～17:00 (最終日は15:00まで)

※11月4日(火)は休館日 ◆会場:2階展示室5

トークイベント「家族からみた明平さん」

対談:岩田ミナ(杉浦明平長女)×三田村博史(中部ベンクラブ会長)

◆10月26日(日) 13:30～15:00

◆会場:1階大広間 ※観覧は当日自由席(席に限りがありますのでお早めにお越しください。)



撮影:水谷積男

文化のみち・ステンドグラス建築探訪ツアー

◆10月19日(日) 10:30～(当日1ツアーのみ)

◆会場:文化のみち二葉館、文化のみち榎木館、カトリック主税町教会、名古屋市政資料館、名古屋陶磁器会館 ◆定員:25名

※申し込み方法・受付日:10月9日(木) 10:00～12:00

文化のみち二葉館へ電話申し込み

※10月19日(日)は名古屋まつりです。文化のみち二葉館の入館料は無料です。

和紙「掌(たなごころ)の記憶」～和紙と土のはからい～

小原の地で採取した黒土、赤土などを漉き込んだ創作和紙の展示です。

◆11月3日(月・祝)～9日(日) 10:00～17:00 (最終日は15:00まで)

※11月4日(火)は休館日

◆会場:1階集会室、2階和室1&2



「歩こう!文化のみち」一ふたば茶屋の抹茶サービス

◆11月3日(月・祝) 二葉館1階「ふたば茶屋」にて、先着100名様に抹茶を進呈します。

◆午前11時より、受付にて呈茶券を配布。なくなり次第終了。

◆会場:1階集会室



トニエコきっぷ・一日乗車券・メーグル1DAYチケットで 入館料割引一般200円→160円



NEWS LETTER  
ふたば便り Vol.19

発行 文化のみち二葉館【名古屋市旧川上貞奴邸】  
指定管理者 アクティオ株式会社

発行日 2014年7月25日  
〒461-0014 名古屋市中区榎木町3-23  
TEL&FAX 052-936-3836 <http://www.futabakan.jp/>

※この冊子は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。



昨年、文化のみち二葉館(旧・貞奴邸)の目の前の太閤本店の店頭隅に「朝日文左衛門の屋敷跡」の表示が同店の協力で立ちました。ご存知の通りその「鸚鵡籠中記」は神坂次郎の「元禄御奉奉行の日記」として紹介されすつかり有名になりましたが、この地域は当時、武士の屋敷町でした。すぐそば、昔の表示とは一致しませんが主税町四丁目、駐車場になっているあたりの情景を、一九二四年刊行の春山行夫の詩集「月の出る町」の序文には

—私の生まれたのはうらぶれた土族町で、…三方を囲んだ桑畑と大きな榎の茂った廣場があった。…私の家の業であった。陶器に繪をつけると言ふ仕事は、いまとは思ひもよらない藝術的な仕事であったらしい。それで、職人と言ふものは随分苦心もしたし、随つて、随分立派な仕事をしたものであった。…彼等は…自分たちの手でつくられる陶器に、たつた一本の筆で自由に美しい繪を描いて生活すると言ふことは、さう言ふことを修業するため都市へ出て、いい師匠に就くと言ふことは、よほど立派なことだとかんがへてゐたのであった。



二葉館周辺の文学

三田村博史

とありますから、明治以後、この地域は急速に変貌し、新しい産業が生れ、新しい文化を生み出しています。春山は陶器の絵付け師のひとり井口蕉花たちと一九二二年に詩誌「赤い花」を出し、さらに「青騎士」を出します。この雑誌は、今も大津橋にある「伊勢久」の主人・高木斐瑳雄、宮沢賢治を見出したといつていい佐藤一英、さらに金子光晴たちも加わった日本最初のモダンニズム詩誌です。金沢から上堅杉町に移つて

来てのちに「現代詩の母」と呼ばれた永瀬清子も彼等と関わっています。春山行夫は東京へ出て「詩と詩論」の編集もしますが、西脇順三郎が「詩と詩論」に詩を発表したのは「青騎士」の後ですから、日本のモダンニズム詩はこの「文化のみち二葉館」周辺が発祥地といつてよいでしょう。清水町の牧野吉晴は、戦後二期、空手小説で二世を風靡しました。関東大震災の時には金子光晴も牧野宅へ二か月ほど避難してきています。実は牧野は東海中学校で富沢有為男の後輩、東京へ出て美術雑誌「東陽」の編集もしますが、その四号に載せた富沢の小説「地中海」が第四回芥川賞を受けています。

新興芸術派として一九三〇年前後、川端康成と競つた久野豊彦は今の日本料亭「か茂免」の前の四千坪の地で育っています。時代の先を行きすぎたこのポスト・モダンニズム作家も忘れられています。久野は



主税町長屋門

舞踊家伊藤道郎とも親しかった。ええ、舞台芸術の伊藤嘉朗、俳優の千田是也の兄です。

長屋門のあたりにあった名古屋市長公舎には永井荷風の叔父、高見順の父阪本彰之助が住み、のちに塩津村長(現・蒲郡市)となった櫻田十九郎も長塚町で探偵小説を書き「新青年」などに発表しています。そう、歌人・岡井隆は主税町で戦火を受けています。探れば探るほど、この辺りがまさに文学の宝庫、新しい文化の発信地だといつことがわかってきます。

三田村博史  
中部ベンクラブ会長 中日新聞金曜夕刊に「東海の文学風土記」連載中  
著書に「妻の亡命」「漂い果てつ」など